

女性も活躍する自衛隊に興味 吉原第一中学校職業講話

自衛隊静岡地方協力本部富士地域事務所（所長・大石雄一2等陸尉）は、11月17日（金）、富士市立吉原第一中学校で職業講話を行った。

これは、生徒が社会を知り、働くことの意義や自身の将来を考える機会として同校が計画し、富士所に依頼があったもの。

当日は自衛隊のほか、映像制作ディレクター、料理人、パティシエ、弁護士、看護師、美容師、市役所職員といったさまざまな職業の講師が招かれ、富士所の講話には1年生48人が参加した。

講話では、大石所長が自衛隊の任務や職種を紹介するとともに、自らが自衛隊を選んだきっかけ、仕事の魅力や楽しさ、やりがいを感じた体験談などについてスライドを交えながら伝えた。

また、生徒からも「今までで一番きつかったことはどんなことですか」「音楽隊はどんなことをするのですか」など中学生らしい質問が多く寄せられ、関心の高さがうかがわれた。

講話終了後、生徒からは「自衛隊には多くの仕事があること、協力が助け合いが大切であることを学びました」「講話を聞いて、自衛隊の堅苦しい・きついというイメージが変わった。女性も多く活躍していることを知って、興味を持った」との感想をもらうことができた。

富士所は、今後も学校と連携し、自衛隊の認知向上やイメージアップを図っていく。



海自の哨戒機に体験搭乗 操縦するパイロットの姿を間近に

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・武田恭一1等空佐）は12月2日（土）、海上自衛隊厚木航空基地（神奈川県綾瀬市）で行われたSH-60K哨戒機の体験搭乗に参加者を引率した。

これは中・高・大学生やその保護者等に海上自衛隊の航空部隊について理解を深めてもらうと行ったもので、静岡県内から26人が参加した。

搭乗時の注意事項を聞き、ドッグタグとヘルメット、ヘッドセットを装着した参加者は、4人ずつ分かれて機体に搭乗した。

機体はゆっくりと離陸すると、高度約500メートル、時速約200キロで横浜方面へ向かい、三浦半島を左手に江の島上空を飛行し、基地へ戻る約20分間の体験搭乗を行った。

上空では機内の様子や外の景色を見ることができ、参加者はパイロットが操縦する姿を間近で見学したり、機体に備えられた高性能カメラの映像について説明を受けるなど、貴重な時間を過ごしていた。

体験搭乗後、参加者からは「パイロットが操縦している姿をすぐ後ろから見られて感動した」「ヘッドセットから聞こえてくる隊員同士の会話や、声を出さずに意思疎通するハンドサインがかっこよかった」との感想が聞かれ、間近で見る隊員の姿に感銘を受けた様子だった。

静岡地本は、今後も部隊と協力し、学生等に自衛隊の仕事について知ってもらうためさまざまな広報活動を実施していく。

